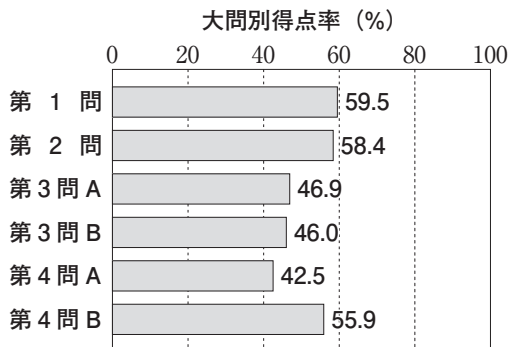
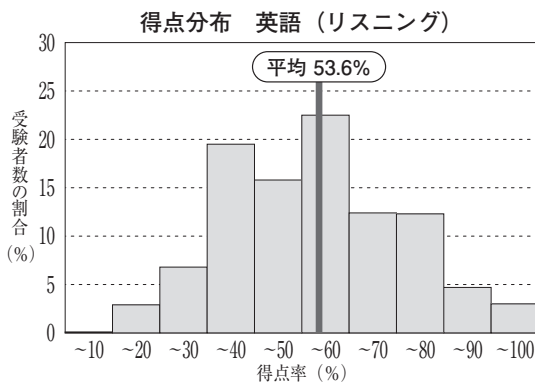


# 英語 (リスニング)

長めの英文に対応できる力を身につけよう。

## I. 全体講評

今回のリスニング問題の平均得点は26.8点で、得点分布は下のグラフのようになっている。大問別に見ると、第3問A、Bと第4問Aの得点率が40%台に終わったのに対し、他は50%台後半に集中していた。今回に関しては、長めの文章を用いた第3問以下でやや苦戦したようであるが、これは受験生全体にとっての課題でもある。うまく対応できなかった人は今後に向けて長い英文を聞き取るためのトレーニングを取り入れる必要があるだろう。小問ごとに見れば、当然ながら出来不出来の差がある。例によって、正解を得られなかった問題については、解説を参照しながら復習しておこう。



## II. 大問別分析

### 第1問 対話の聞き取り (数値・語句・イラスト選択)

あてず設問文をしっかり読もう！

第1問の得点率は59.5%で、平均的な成績であった。ただし、個別の正答率を見ると、最後の2問の正答率が30%台にとどまり、全体に大きく影響した。これらは数値とイラストに関する問題である。問5は回数を求めた問題であるが、例によって計算が求められる。始めにten、追加としてa couple moreとあるので、合計12回であるが、単純に①10を選んだ人が正解者よりも多かった。計算は単純でも、数値表現そのものが多様なので、ここでのハードルはかなり高いと言えるだろう。問6は、話者の1人が描いている絵の構図を答える問題である。現段階では野原と樹木だが、これに池と雲を加える予定だという。設問では「今」の状況を尋ねているので、現状を示す②が正解だが、過半数の人は完成形の④を選んでいった。聞き取りはできていたのに、設問をきちんと読んでいなかったことになるだろう。悔やまれるミスである。

### 第2問 対話の聞き取り (応答文選択)

対話の状況を正確にとらえよう！

今回の第2問の得点率は58.4%で、やはり標準的な成績だったが、小問別の正答率では40%台から80%まで広い範囲にわたっていた。特別不出来な箇所はなかったが、40%台の正答率に終わった問題を見ると、対話の状況がつかめなかった人が多かったようだ。素材はいずれも短い対話なので、どの部分も聞き逃すことはできない反面、込み入った情報のやりとりもない。問11では②を選んだ人が多かったが、これらは選択肢が紛らわしいというよりも、本文が伝える状況がつかめていなかったことを暗示しているようだ。短い文だからこそ、冒頭から集中してほしい。

**第3問 A 対話の聞き取り(質問に対する答えの選択)****中心的な話題をしっかりとつかもう!**

今回の第3問Aの得点率は46.9%であった。小問ごとの正答率を見ると、30%台が1問あったほかは、40%台と50%台だった。30%台に終わった小問は問14である。男性が怒っているのは、女性がバスに乗り遅れたために芝居の開演時間に遅刻したからである。そこで、正解は④「彼らは芝居の一部を見逃してしまう」となるわけだが、正解とほぼ同じくらいの割合で③「女性は芝居を見逃した」を選んだ人がいた。本文中に missed という単語が使われ、選択肢でも missed と miss が出てくるので、多少紛らわしかったかもしれないが、本文では目的語が the bus、選択肢では the play なので文脈が違ふ。中心的な話題が何かを常に考えて欲しい。

**第3問 B 長めの対話の聞き取り****最後まで対話の流れに注意しよう!**

第3問Bの得点率は46.0%であった。正答率の内訳は、30%台、40%台、50%台が1問ずつだった。最も不振だったのは問19である。ここでは旅行先として、男性の希望に添うような女性の最後の提案が決め手になるので、②「美術館巡り」が正解となる。①「世界中のビーチで過ごす休日」を選んだ人のほうが多かったが、これは直前に否定された案である。①を選んだ人は長い対話の流れをきちんとつかめていなかったようだ。間違えた箇所については、読み上げ文を参考にしながら、どこに原因があったかを各自で突き詰めてほしい。

**第4問 A 長めの文章の聞き取り****本文と設問の言い換えに注意しよう!**

今回の第4問Aの得点率は42.5%で、すべての大問中最も低かった。小問別の正答率を見ると、最後の設問が10%台にとどまり、これが大きく足を引っ張ったとわかる。ここは、「父の弟」=「おじ」というように、同じ事実を本文と選択肢で違った言葉で表現しているのがポイントである。これ以外にも、内容一致問題の性格上、本文と選択肢では同じ表現を避けるのがふつうだと考えるべきである。センター試験のリスニング問題では最も難しい箇所と言えるので、この大問で満足のいく成績を取れなかった人は、今後類似問題をこなしながら、対応力を高めていってもらいたい。

**第4問 B 長めの会話の聞き取り****最後の難関を無難にまとめていた!**

第4問Bの得点率は55.9%とまずまずの出来だった。話題となっている「バイク・セール」とは何かについては、会話を聞きながら、およその見当はつくだろうが、最初の問23の正答率が30%台とやや不振だった。会話の最初のほうの内容が問われたわけだが、難しいことを尋ねているわけではない。間違えた人はどのあたりに原因があったかを究明しておこう。全体としてみると、ここで大崩れしなかったのは高く評価できる。最後になって長い英文を聞き取らなければならないのは厳しい課題であるが、今後のトレーニングを続ける中で、問題に慣れると共に、ここ一番という時に求められる集中力を養って欲しい。

**Ⅲ. 学習アドバイス****◆設問形式に則した対策をとろう!**

今回は第1問と第2問に絞って述べたい。第1問には特徴的なイラスト問題と数値問題が含まれ、難問となるケースが多い。イラスト問題では、物の形状、数、位置などに関する言語情報を視覚化する能力が問われる。鍵を握るのは形や位置を表す語句であるが、これらは無数にあるわけではない。数値(時間・金額を含む)に関する表現も同様である。これらの聞き取りを苦手とする人は、過去の出題例に目を通し、必要なら頻出語句のリストを作ってみよう。そして、この種の問題を扱った音声教材を用いて徹底的に反復練習をすれば、言葉と絵や数字を結びつける反応の仕方も早く正確になるであろう。

第2問では対話の流れに沿った応答を選ぶことが求められる。筆記問題と同じく文脈把握力が鍵を握るわけであるが、瞬時に消えていく音声を頼りに解答しなければならない。これについては聞き手の姿勢も大切になってくる。ただ漠然と受け身になって聞いているだけでは、結局は対話の流れに乗り損ねる場合が多い。もちろん、冒頭部分は受け身にならざるを得ないが、わずかな情報でも得られたら、①場面や人物関係を想像しながら聞く、②展開を予想しながら、当事者になったつもりで聞く、という2つのことを実践してほしい。要するに、臨場感を大切にしてほしいのである。音声を聞くときにはこのような姿勢でいてほしい。